

### 第3回三田市認知症支え合いのまちづくり懇話会 議事録

日 時	令和3年6月25日（金） 14:00~15:30
開 催 場 所	三田市役所
出 席 委 員	足立 正樹、舟川 格、小林 昇、山西 敏之、寺坂 梨沙、馬場 民生、 大西 小百合、福田 恵美子、河崎 俊文、田辺 智子、古屋 一之、北村 吉次、 高見 智也
欠 席 委 員	坂本 裕樹、荻田 藍子
事務局出席者	三田市役所福祉共生部 福祉共生部長 入江 正浩 三田市福祉共生部 いきいき高齢者支援課長 西脇 寛 主任 池田 聡美 事務職員 東 晃輔
傍 聴 人	3名
使 用 資 料	【事務局資料】 ・次第 ・懇話会委員名簿 ・座席表 ・認知症に関する市民意識調査結果【抜粋】 ・認知症に関する市民意識調査結果
議 題	1 開会 2 市長挨拶 3 委員紹介 4 議題 ① 認知症に関する市民意識調査の結果報告について ② 意見交換 5 その他

#### 会議の概要

事務局	<p>1 開会</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。 定刻となりましたので、ただ今から「第3回三田市認知症支え合いのまちづくり懇話会」を開催させていただきます。司会進行を務めさせていただきます福祉共生部の入江です。開催にあたりまして、森三田市長より挨拶をさせていただきます。</p>
森市長	<p>2 市長挨拶</p> <p>みなさんこんにちは。2月9日懇話会を立ち上げ本来であればその時に挨拶をする予定でしたが、公務が重なり3回目の今日に改めて挨拶をさせていただきます。新型コロナウイルス感染症の関係では、兵庫県の場合は緊急事態宣言から蔓延防止措置に移り兵庫県の感</p>

染者数はかなり減少傾向を続けています。先ほど連絡があり三田市の今日の感染者数は0でした。まだまだ皆さんにはいろいろな面でお世話になりまたご不便をおかけしておします。さて認知症の取組を進めるため昨年から庁内で議論をしており、私自身も認知症の問題については関心を持っています。個人的ではありますが親戚の中に長年苦しんだ方もおられました。最近では治療薬が出たという話もありますが、認知症の方やその方を支えておられる家族の方をいかに地域の中で、そして三田市としても今後どのように支えていくかが大きな課題ではないかと考えています。福祉の分野だけでなく市としてはいろいろな分野から今後皆さんに議論いただき一定の方向ができれば新たに施策に繋げていきたいと考えています。当然条例も視野に入れておりますし、来年度新しい施策として充実させていきたいと考えております。三田市では現在第5次総合計画の議論を、市民の方に情報提供をしながら市議会と連携して取り組んでおりますが、その中で新しい福祉というのは孤立化をどのように防いでいくかです。児童虐待、不登校、引きこもり、8050問題あらゆる世代を通じて孤立化を防ぐと共に、社会で支えて行くことが非常に大事ではないかと思ひます。認知症の方やその家族の方の社会とのつながり、また社会でいかに支えていくか等について活発なご意見、積極的なご提案をいただければと思ひます。今後スケジュール等の話になると思ひますがコロナ禍の中またこれからの厳しい夏、どうか健康には十分留意されて、認知症の問題を通じて新しい街づくりの絵を皆さんで書いていただけたらと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございました。

市長は、公務のため退席させていただきます。

本日の出席者につきましては、お手元の委員名簿と座席表にてご覧ください。なお、人事異動等により委員交代がありましたので、事務局より紹介させていただきます。宝塚健康福祉事務所所長補佐兼地域保健課長の西大委員でございます。三田市副市長の高見委員でございます。なお、坂本委員、荻田委員は欠席されております。事務局につきましては、いきいき高齢者支援課より 西脇・池田、東、そして私福祉共生部入江が出席しております。傍聴につきましては、「三田市附属機関等の会議の傍聴要綱」に基づき、3名の方が来られておりますことを報告いたします。

ここで、資料の確認をお願いいたします。

事前に郵送していた資料で、次第、懇話会委員名簿、認知症に関する市民意識調査結果【抜粋】、認知症に関する市民意識調査結果です。追加資料で本日の座席表とアンケート結果集計表を机の上に置いておりますので、ご確認ください。お手元にない資料がございましたら、事務局へお申し出いただけますようお願いいたします。

本日の予定としましては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、約1時間30分、15時30分頃を目途に終了させていただきたいと思ひますので、ご協力をお願いいたします。それでは、議事に入りますが、三田市認知症支え合いのまちづくり懇話会設置要綱第6条

	<p>第1項の規定によりまして、懇話会の進行を足立座長にお願いしたいと思います。足立座長、よろしくお願いいたします。</p>
足立座長	<p>こんにちは。今日は三田市民対象に行われましたアンケート結果につきまして、委員の皆様から積極的なご意見をお伺いするのが主な内容になっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
足立座長	<p>4 議題 ① 認知症に関する市民意識調査の結果報告について 本項目は「認知症に関する市民意識調査の結果報告（抜粋版）」について、事務局より説明を受けて意見交換に移りたいと思います。それでは結果報告について、事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>認知症に関する市民意識調査結果【抜粋】について説明</p>
足立座長	<p>それでは、皆様から意見や質問をお願いします。</p>
古屋委員	<p>この病気になってから長いですが、病気になることでたくさんの人と出会うことができました。この病気も捨てたものでないと思えるようになったのもここ数年です。当初は何もやる気がなく脱力してしまい、病名を聞いただけでもアウトでした。もちろん務めていた会社も退職させられてしまいました。認知症の人にはやってもらう仕事はないとはっきりと言われました。そこから色々な葛藤がありましたが、たくさんの方と出会えたことが私の宝物で、この病気も決して悪いものではないと、やっと言えるようになったのが今の私です。これから私の後ろを歩いてくる人がいると思いますが、その方に決して捨てたものではないということを伝えたいです。それまでは何とか健康を維持して、言われたらどこへでも行きたいしその方に会いたいと思っています。誰にも会いたくないという日が何日も続きましたが、関わって下さる方々のおかげで考え方や物の見方が少しずつ変わってきました。それともう一つは、三田市の陶芸館の出会いです。以前から陶芸に興味があり、認知症の人は断られるかも知れないと思いながら勇気を出して足を運びました。すると奥に座っている方も古屋さんと同じ病気ですよ、どうぞ来てくださいと言われました。それが私にとってのターニングポイントとなりました。一言かけてもらったその言葉で立ち直っていけることができたのです。自分にもう一度何かをする勇気を与えてくれたのが、三田市の陶芸館です。これから私の後を続ける方がたくさんおられるかも知れませんが、ひとりひとりの方と関わっていきたいと思っています。病気を克服するのに随分時間はかかっていますが、今度は私が人の為に何かをさせていただきたいと思っております。私でできることであれば何でも言ってください。どこへでも行きます。この言葉には嘘はありませんのでどうぞよろしくお願いいたします。</p>

寺坂委員	<p>古屋委員からご自身の思いや体験をお話していただき、古屋委員はご自身の経験を糧にしてみなさんに伝えたいと言ってくれる貴重な存在だと思います。実際に三田市にも古屋委員と同じような方がおられますが、周りに知られることに勇気がいると言われてます。周囲に知られることが不安に思うのは、住んでいる地域でどんな方でも受け入れることができる土台がまだまだないからだと思います。アンケート結果から認知症という病名や症状は知っているが、どのように対応したらいいかわからない、相談先もわからないという結果が出ています。このような取り組みがあることを広く知ってもらう為に、今後も皆さんのお力を借りて考えていくべきではないかと考えています。</p>
北村委員	<p>今回の意識調査について、市民の反応は三田市の大きな財産になると思います。懇話会内だけの共有ではなく、抜粋版等を新聞記事に提供してはどうでしょうか。自由意見を読むと身につまされることがたくさんあります。今回の結果をもっとたくさん広げてそこから広い意見を拾い上げてほしいです。</p>
足立座長	<p>新聞発表等について事務局は何か考えていますか。</p>
事務局	<p>このアンケートに関しての新聞発表は今のところ考えてはいませんが、広報誌等に掲載することができるのではないかと考えます。</p>
足立座長	<p>アンケートの回収率が高いのは成果だと思います。類似の認知症調査の回収率を近隣市とデータ比較して高いようであれば、今後のセールスポイントにもなり PR の材料にもなります。三田市民の意識が高いのは大きな財産になる。新聞に掲載するのもいいアイデアだと思います。近隣市の調査と比較して回収率が高いかどうかの回答を次回までお願いします。</p>
山西委員	<p>認知症の言葉も症状も知っていると答えた方が 83.4%おられますが、MCI（早期発見・早期治療につながるおいしい時期）、BPSD（介護が困難な原因）を知っている人は認知度が低いという結果でした。このことから、今後も理解を深める努力がまだまだ必要だと思います。問7の認知症の情報源ですが、8割がTV、ラジオ、新聞を上げられていました。これは悪いことではなく日本全国そうです。ただここに三田市の特色を出せないかと考えます。認知症あんしんガイドブックがありました。コンパクトにまとまっていて非常に分かりやすいと思います。問7の中であんしんガイドブックを上げておられた方が2～3%に留まってしまっている。三田市の広報誌と組み合わせて、あんしんガイドブックの認知度を上げられないかと思いました。市民の方が手に取りやすいところに設置できないか考えました。広報活動について、若い世代の方には SNS を使わない手はないと思います。三田市の公式インスタグラム (sanda_smile) との連携、いきいき高齢者支援課が Facebook を開設する等、SNS を使って若い人達の認知度を上げていけないかと思いました。相談する窓口ですが、そもそも相談するきっかけが大事だと思います。もの忘</p>

<p>福田委員</p>	<p>れが気になった時に相談する機関の敷居が高いと思います。ですので、特定健診や後期高齢者基本健診時にもの忘れチェック等のスクリーニングができないかと思いました。</p> <p>4年前から個人のボランティアが集まり、認知症の方、介護されている方、認知症を理解して協力してくださる方を対象に認知症のカフェを行っています。広報が足りないという意見がありますが、そもそも場所が決まっています。場所を確保するために4か月前から深夜12時に抽選に応募し、空いていなければまた3か月前に空いている部屋を借りている現状です。借りることが出来る部屋も毎月変わります。市民センター長に公的に場所を借りることができないかとお願ひしていますが、未だに返事はありません。部屋を借りようとすると費用の問題があり、社協からの補助金のみで1年間やっています。民生委員や個人のボランティア、キャラバンメイト等、地域の方のボランティア精神のある方が集まってやっています。逆に広い部屋で行うと、スタッフの手が足りないということもあり、一歩前に進むことができません。30数年前に主人の母がアルツハイマー型認知症になり、日々変わっていく母の姿を恐々と見て、本当に不安な日々を過ごしました。それでも誰にも相談することができませんでした。でも今はそういう時代ではありません。今回のアンケートの自由意見は本当に素晴らしいと思います。小学校の授業に使うという意見がありましたが、これはとても有効です。けやき台小学校では4年生に認知症サポーター養成講座を取り入れています。私の孫が徘徊している高齢者を発見して、「ばあば、助けてあげて」と教えてくれ、その方を無事にご家族のもとへ送ることができました。けやき台の子は認知症という言葉を知っていて、不審な行動をしている方を見つけたら近くの大人に伝えることができます。子供の時から身に着けることを今後三田市全般に広げて欲しいです。それと民生委員はあらゆる相談に応じるとされていますが、今私が対応している方で毎日電話をかけて来られる方がいます。「今日の予定は？映画やカフェに行きたいから一緒に行ってほしい。」と言われる。私も1週間に1度位は対応できますが、毎日となると難しいです。地域の方が一緒にお茶を飲みながら少しの時間過ごしてくれるだけでいいのです。そんなちょっとした支援が地域に広がればいいなと思いますが、現実は厳しいです。地域のコミュニティカフェに3回ほど一緒にいきましたが、「同じ話ばかりいつまで聞けばいいのか、いつまで我慢すればいいのか」と言われました。その後はその方をお連れすることができなくなりました。地域みんなが支え合うということ三田市の隅々まで広めてほしいというお願ひと実例をお話しさせていただきました。</p>
<p>寺坂委員</p>	<p>けやき台小学校で認知症サポーター養成講座されているというお話しでしたが、社協の生活支援コーディネーターと、各包括・高齢者支援センターとで、認知症サポーター養成講座の取組をしていただけないかということで、各小・中学校へ個別に訪問しています。認知症に関心を向ける良い機会だという意見や、小・中学生は吸収力があるので、認知症サポーター養成講座を行うことは教育としても良いことだという意見を先生から頂いています。今各学校に個別的に話を聞いているところですが、三田市内のどこの教育機関でも認知症について考える場が持てたらいいのではないかと考えています。</p>

馬場委員	<p>先ほどのお話しから認知症に否定的なイメージがありますが、個人的にはそのような感覚が無いので、否定的な感覚があることにショックを受けました。認知症の暮らしの在り方ですが、自由意見の P13 に認知症になっても可能な限り自宅で過ごしたいという意見があります。私が後見人をしている在宅の認知症の方が何名かおられますが、ほぼ全員自宅で暮らしたいと思っておられます。問 11 の結果を見ると、若い方は親のこととして考えて、年齢層が高くなると自分のこととして考えているように思われます。後見人をしている他市の方で、80代の認知症の独り暮らしの方が最近失禁するようになり、CM から施設の暮らしがいいのではと提案があり、とても驚きました。失禁するくらいで施設へなぜ入らなければならないのか、それが本人にとっていきいきとした生活なのか。ご本人が嫌がるのは目に見えています。そもそもどこで暮らすのがいいのか、どういう生き方がいいのか、よく分かりません。現実動いていることと認知症の本人の思いに大きなズレがあると感じました。地域特性で山間部が多くと書いてありますが、私も田舎の田園地帯に住んでいますので、将来の不安についてよく分かります。アンケートに地域ごとの数値が出ていますが、そのことによりどのような事が見いだしているのか、よく分かりませんでした。三田の特性としては、山間部とニュータウンがあり、その特徴的な部分から何が見いだしているのかを知りたいと思いました。</p>
足立座長	<p>認知症について正しい知識を持つことが重要だと言われますが、本当に正しい知識というものがあるかどうか。自分の経験や知っていることが正しいと思ひこみ、それを伝えればいいと思っているのではないかと。厚生労働省の認知症に対する意見も色々変わる。認知症は予防ができるや早期に治療すれば治ると言っていたが、ここ数年は悲観的な発言になっている。アンケートで若者と高齢者がかなり分離しているが、条例を作る時にはこの分離を違いとして強調すべきかどうか。認知症のイメージの明暗ですが、若者の方が明るいイメージを持っている。また若者は施設で身近な人に助けてもらいたいと思っており、高齢者層は地域で暮らしたい。これは明らかに二つの層の分離です。若者と高齢者の意見の分離を市でもっと分析し条例に反映させるべきかどうか。また職業の違いもはっきりと出たので、これを分析し対策の違いに持ち込めるかどうかの検討をお願いします。</p>
大西委員	<p>P9 のサポーター養成講座について、知らなかったが機会があれば受講したいが 44.8% で、知らなかったし、受講希望もないが 33.3% という結果ですが、44%の方が機会があれば受講したいと回答しておられ、機会というのが何を指しているのかが分かれば、自分からサポーターになって理解を深めようとされている方が多いと感じました。受講という形で場所を設定し集めて実施する方法ではなく、例えば動画配信や SNS を使って関心を持っておられる方へ情報を伝えることができればよいなと思いました。</p>
足立委員	<p>自由意見にサポーター養成講座はハードルが高いという意見がありましたが、なぜそう思うのかを今更確かめるわけにはいかないが、市民に対して聞き取り調査をして、ハードルが高い人がどれくらい存在し、なぜそう思うのか聞き取ってほしい。また知らないが受講</p>

<p>小林委員</p>	<p>希望もないのはなぜかという理由を知る為、本来はアンケートに理由を記載する欄を設けるべきだったのではないかと。今の時点でできるとすれば、個別の聞き取りならできるのではないかと。身近な人に理由を聞き取ることで、ヒントを探るという方法もあるので、条例に活かすためにぜひやっていただきたいと思います。</p> <p>教育が染み込む対象に対して講座と同じような授業を行って、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんが授業参観（今はコロナ禍でなかなか集まることが出来ないが）という形で見せることができれば、一石二鳥ではないかと。教育のカリキュラムに入れることは市単位でできることか、県・国単位でできることか、この辺をきちんと判断していただきたいと思います。年代別ということで、キーワードは緊急時の対策を求める声です。若者から中堅の働き盛りの方と、その方達のお父さんお母さんが住んでいる場所が同じかということです。同じであれば夜中に呼び出されても対応はできます。市外や県外だと連絡が入っても対応が困難です。例えば三田市民病院へ入院し手術が必要になった時にサインをしてくれる人がいなかったらどうするか。その時に後見人・代理人制度があり制度的に対応を求める声が若い人の中で多いのではないのでしょうか。それと相談窓口が分かりにくいので、何でも窓口が必要だと思います。レスパイト入院やレスパイト預かりが身近にあり、困った時にはそこへ駆け込めば対応してもらえらというような施設や制度が必要です。グループホームや特養を含め色々な施設や精神科病院があります。そのような関係する施設や病院等の体制づくりを行政主導でやっていくというのはどうでしょうか。</p>
<p>舟川委員</p>	<p>自由意見で P11 の働く若手世代に教育してほしいや授業の一つに取り入れたらいいという意見に共感しました。若い世代への教育活動が重要で、直ちに効果があるものではないが、種を植えるのには若い世代がいいのではないかと思います。認知症の本人と家族の意見が乖離するのは、仕方のないことです。本人としてはできるだけ在宅で過ごしたい、しかし家族は毎日毎日同じことを聞き続けたいといけなというのは、家族にとっては非常にストレスになります。ここの乖離が非常に強く、近々の課題だと思います。兵庫中央病院で認知症カフェを実施しましたが、非常に効果がありました。病気に対する効果ではありませんが、家族の精神的な負担のガス抜きになりました。ボランティア団体だけで運営しても潰れてしまうだけなので、介護する人のガス抜きを念頭に入れて市として率先して認知症カフェをしてほしいです。</p>
<p>河崎委員</p>	<p>アンケートの回収率から、認知症に対する興味の高さを実感しました。コープでの講座やイベントでも、認知症予防学習「認知脳の鍛え方を学ぶ」という内容の人气が高くすぐうまります。またアンケートの回収率ですが、コープでも様々なアンケートを実施しますが、このような高い回収率はあり得ないですし、自由意見の 153 件の中身を大事にするべきだと思います。数字だけではなく、自由意見内容を分析してくみ取ることが大事だと思います。市民は知識や理解を得たいが方法が分からない、行政や事業者側はいろいろなことをやっているがそれが周知されていない。この距離感をどうやって埋めていくかとい</p>

	<p>うと、情報提供のあり方を根本的に見直す必要があると思います。ひと昔前は新聞折り込みやチラシだけで8～9割の人に情報が行き渡っていたが、新聞購読率が下がりなかなか情報が行き渡らないということを考えると、紙媒体に加え、SNS、アプリなど年齢別階層別の情報提供のあり方を検討していく必要があります。このアンケートでは男女がないが、男性と女性では情報の行き渡り方がかなり違います。高齢の男性には情報が行き渡りにくいと感じています。そのような方に対してどのように情報提供を行うかということも踏まえて、情報提供のあり方が課題だと思いました。</p>
田辺委員	<p>問 11 の結果から認知症の生活支援を行っている事業所としては、具体的に少しでも長く在宅で過ごせる介護の工夫といった一歩踏み込んだ情報を発信していかなければならないという責任を感じました。また数年前と違い、時々入院でほぼ在宅を目指しておられるご家族が増えたように感じています。そうすると医療と介護をうまく連携していかないといけないです。いつまでたっても退院できない、また介護側が気づかず病気を悪化させてしまう、そういったことがないようにうまく連携して、三田市で未永く暮らし続けることができるように努力していけたらと思いました。</p>
小林委員	<p>在宅を目指す家族が多くなった印象を受けるというのは、実際どのような感じですか？</p>
田辺委員	<p>施設に長期入居するというより、短い期間グループホームを利用して重くなったときに家に帰ろうという計画を立てておられる家族の相談を受けるようになりました。グループホームは最期看取りまで出来ることを伝えて入居してもらいますが、最期動けなくなったら在宅で介護したいと家族が言われます。またグループホームでは緊急ショートステイをワンフロアで1床受けることができますが、その人気が高いです。最高13泊14日まで受けることが可能ですが、月のうち半分はショートステイを利用し残りは在宅で過ごし、ショートステイをうまく利用しながら在宅での介護されている家族さんが多い印象を受けます。</p>
舟川委員	<p>認知症に限らず、パーキンソン病などの神経難病の患者さんもそうですが、レスパイト入院という形をとられている方も増えています。患者さん家族にもむしろレスパイト入院を勧めている。在宅生活を成功させる為には介護者が心身ともに健康が大切だと家族に言っています。レスパイトは制度上も認められているので、施設や病院をうまくシェアできればいいなと思います。</p>
寺坂委員	<p>包括で仕事をしていると、施設やサービスを利用できる方はついていられる方だと思います。金銭的・介護区分等の問題で在宅を選ばざるを得ない方もおられます。このように各分野の方達とお話をする中で、それぞれの見え方や考え方があり非常に勉強になります。懇話会を5回で終わるということではなく、どのような形で続くか分かりませんが、このような会に参加できていない企業や地域にお住いの方の話を拾い上げながら認知症になって</p>



	<p>も住みやすい三田市を目指していくべきではないかと思います。</p>
足立座長	<p>これから今後の予定を事務局より提案しますが、次回アンケートにつきまして十分意見を頂くことを予定しておりますので、今日の懇話会の意見交換を終了させていただきます。</p>
事務局	<p>5 その他 別紙スケジュール案について説明 (全員一致で合意)</p> <p>それでは時間になりましたので、終了させていただきます。 次回開催予定は7月27日(火)14時～、場所は市役所本庁舎303ABです。本日は誠にありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>